

令和4年度自己評価計画書に対する最終報告

石川県立金沢辰巳丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析(成果と課題)と改善策等
ICT機器を積極的に活用しつつ、主体的・対話的で深い学びや個別最適化された学びを実現する授業実践に努め、学習意欲の向上や学習習慣の定着、課題を発見し解決できる力を育み、個々の進路実現を図る。	① 主体的・対話的で深い学びの実現のために、校内で全ての教員が研究授業・公開授業を行い、授業参観や校内外での研修を通して、タブレット等のICT機器およびアプリケーションソフトを効果的に組み込んだ授業実践を継続的に行っている。	教務課 情報課 各教科	【努力指標】 年間を通し、タブレット等のICT機器およびアプリケーションソフトを効果的に組み込んだ授業実践を継続的に行っている。	タブレット等のICT機器を効果的に組み込んだ授業を実践していると答える教員の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。(教員によるアンケート)	90.0% A	前期83.3% 生徒用端末を活用する公開授業をすべての教員が実施した。そのための準備や、実施後の反省を踏まえ改善に取り組んだ成果がこの結果につながったと考えられる。 今後「効果的な使用方法」のアンケート結果を共有して実践に活かしてもらうとともに、授業評価アンケートの分析を教科ごとに進める。 次年度以降も実践と検証を促していく。
	② 指導と評価の一体化の実現のために、学習計画に沿った指導と評価を実施し、生徒の実態に合わせた改善を定期的に学校全体で行う。	教務課 各教科	【努力指標】 各教科で指導と評価の一体化を実現するために、授業の実施、学習評価、学習評価を基に改善・充実を図る一連のサイクルを確立する。	指導と評価の一体化の趣旨を理解し、授業の実施、学習評価、学習評価を基に改善・充実を図る一連のサイクルを実践していると答える教員の割合が A 75%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。(教員によるアンケート)	80.0% A	前期75.0% 作成した学習計画が生徒の実態に即しているか否かを確認しながら指導を進めてきた。また、各教科で今年度の反省点を踏まえて次年度の計画の作成に取り組んだことがこの結果につながったと考える。 今後は、このサイクルを常に回し続けることと、生徒の実態と指導、評価の整合性を確認する手立てを検討していく。
	③ 生徒が授業以外で学ぶ習慣を身に付けるために、ICT機器を活用して学校外で学習する予習・復習のための課題の提示や、定期テストなどと結びつけた計画的な学習指導を行う。	教務課 各学年 各教科	【成果指標】 各教科でICT機器を活用して計画的に課題を与え、その提出や評価を適切に行う。放課後学習や自己実現のための学習を含めた授業以外の学習時間の確保を図る。	平日の学習時間(授業以外)が1時間以上であると答える生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。(生徒によるアンケート)	42.4% D	前期48.7% 生徒に家庭学習の習慣が定着していないため、平日1時間以上の学習時間を確保させることが難しい状況である。今後学習課題の内容と取り組み状況等を可視化し、生徒が取り組みやすく、教員がそれを促しやすいようにしていきたい。 学習時間の捉え方の共有と周知、集計方法等を今後再検討する。
	④ 計画的なキャリア教育を行うとともに個人面談を継続的に行い、目標を明確化させ、有意義な高校生活を送るよう支援を行う。	進路指導課 各学年	【満足度指標】 本校でのキャリア教育が、探究的に行われ、生徒が主体的に学べるよう計画的かつ効果的に機能し、進路目標が明確化している。	本校でのキャリア教育が、生徒の主体的な活動をおし有意義なものとなっていると答える生徒の割合が A 90%以上である B 85%以上である C 80%以上である D 80%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。(生徒によるアンケート)	82.7% C	前期96.4% 職業インタビューや分野別ガイダンス、志望理由書講座等の行事について、複数年かけて開催時期や内容を吟味しながら各学年で様々なガイダンスを行った。生徒の「振り返りシート」を見ると、生徒が「主体的」に活動する場面があまりない行事が多かったと考えられる。今後は生徒の主体的な活動をどのように取り入れていくかを各学年と協力しながら検討する。 また、進路指導だけでなく学校行事や委員会活動、部活動などでも達成感を味わわせ、将来の目標を持つことにつながられるような手立てを考え実践する。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の利活用について、学校として組織的・積極的に取り組み、個々の教員もそれぞれ努力していることが理解できた。 多様な背景や事情を持ち、さまざまな思いを抱いて入学してきた生徒に対し、教員が授業だけでなく行事等も通じて指導していることがわかった。 学校は互いに触発しあう場である。アウトプットの機会を増やし、刺激しあう場面を設定してほしい。 キャリア教育の観点からも、さまざまな体験を通じて学ぶ理由や将来の展望を持たせ、自ら学ぶ生徒を育ててほしい。 							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の利活用については今後も研修や実践を重ねていく。ICT機器の活用による授業の振り返りをさらに有意義なものにする。 進路関係の行事等については、読むだけ、聴くだけの内容ではなく、生徒が主体的に参加する形式を追求する。 探究型の授業の深化に務め、「課題の発見・探究・解決策の提示・新たな課題の発見」というサイクルを自ら回すことができる生徒を育成するための取り組みを行う。 							

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析(成果と課題)と改善策等
2 挨拶や時間、服装容儀などの指導を通して基本的な生活習慣を身につけ自律性を高めるとともに、外部人材も活用して協調性やコミュニケーション力を身につけ、豊かな人間性と社会性を育む。	① 全教職員で協力し、時間の大切さを自覚させる一方、保護者との連携を図りながら遅刻の減少を目指すことで規範意識の高揚に努める。	生徒課 各学年	【成果指標】 年間を通じて遅刻5回以上の生徒の割合が令和3年度を下回るようにする。	年間を通じて遅刻5回以上の生徒の割合が A 10%以下である B 12%以下である C 14%未満である D 14%以上である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	年度末に調査する。	13.3% C	遅刻は社会的にも信用を損なうものであると認識させ、適度な負担を与えながら何事にも耐えられる精神力を身につけさせるよう指導していく必要があり、そのためには保護者との連携が必須である。個別の声かけを通して生徒に自覚を持たせるとともに、保護者への周知と理解を求める。 遅刻登校の際にタイムリーな指導が困難な場合があるため、副担任その他で遅刻の情報を共有し、効果的な指導を遅滞なく実施していきたい。
	② 個人面談を充実させ、生徒の様子を観察する。また、いじめ等の問題には早期にいじめ問題対策委員会(対策チーム)を中心に全教職員で連携し、解決にあたる。	生徒課 教育相談室 各学年	【満足度指標】 全職員が共通理解し、いじめ等の問題に迅速に対応し、生徒が安全で安心して学ぶことができる教育環境になっている。	各課・学年と連携がとれて、いじめ等の問題を抱えた生徒の早期把握と組織的対応がとれたと答える教員が、 A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。(教員によるアンケート)	100% A	前期100% 生徒課、保健室、相談室、各学年で、面談や観察によって得られた生徒の情報を常に交換しあっている。そのため生徒の小さな変化に気づきやすいことがこの結果につながったと考えられる。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートによると、生徒の悩みや生徒指導について、教員が適切に対応していることが読み取れる。 ・同じアンケートには「雰囲気が良い」「満足している」「先生の熱意を感じる」という回答が多く、生徒に対して丁寧な指導や支援、声かけがなされていると感じる。 						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も全教員の共通理解のもと生活指導に取り組み、それぞれの教員がアンテナを高くしていじめの予防に務める。 ・保護者との連絡を欠かさず、目線を合わせた指導を心がける。 ・「総合的な探究の時間」に外部の方々を積極的に招き、コミュニケーションの場を設けて社会性を培う。 ・すべての生徒が安心して高校生活を送ることができるよう努力を続ける。 						

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析(成果と課題)と改善策等
3 学校の魅力をさらに磨き、校種間交流や地域と連携した取り組みを積極的に進めることで、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりを推進するとともに、広報活動を充実させる。	① 地域及び小中学校、大学等との交流活動を実施し、その情報を様々な広報活動を通して発信することで、本校の教育活動への理解と協力を促進する。	総務課 各コース	【満足度指標】 各コースの特色を活かした地域や小中学校、大学等との交流活動等について、その取り組みや内容が保護者等にしっかりと伝わり、活動に対しての理解や協力を得ることができる。	各種の交流活動等について、広報活動を通して学校の取組みがよくわかると答える保護者の割合が A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。(保護者によるアンケート)	91.4% B	前期84.0% 学校における様々な行事・活動について、即時性を強く意識して情報の発信を行っている。このことが保護者にも認識されてきたことにより、保護者にホームページを閲覧する習慣が定着したものと考えられる。
	② 地域や小中学校、大学等との交流事業、学校行事など、本校の特色ある教育活動の様子をホームページを通して積極的に外部に発信する。	総務課 各コース	【努力指標】 行事が終了するごとに情報の更新を速やかに行う。部活動に関しては各学期ごとに最低1回は更新することを目標として取り組む。	担当する部活動等のホームページ更新回数が年3回以上であると答える教員が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。(教員によるアンケート)	40.0% D	前期41.6% 教育活動の広報については、上欄の保護者アンケートの結果から見ても適切に行われていると考えられるが、情報発信の頻度に偏りがあるのが現状である。ホームページへの掲載手順は簡素化してあるので、タイムリーな情報発信の大切さについて全職員で共有を図るようにする。
	③ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開し、地域の方々と積極的に関わる機会を増やす。また、芸術コースの生徒が地域の行事に積極的に参加し本校の活動や取り組みを広報していく場とする。	生徒課 各学年	【成果指標】 生徒の地域の方々と関わることに 対する意識を高めるとともに、年間を通して近隣地域での各種ボランティア活動に可能な方法で取り組む機会を提供する。	近隣地域での各種ボランティア活動に複数回参加した生徒の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。(生徒によるアンケート)	26.9% D	前期27.0% 今年度は、かなざわマラソンボランティアに生徒会執行部メンバーとJRC部員が参加することができた。またLHに実施した地域清掃には全生徒が参加し、地域の方々と交流する場面があった。JRC部はコロナ禍のため施設訪問等が実施できない環境の下、可能な限り屋外でのイベント等に参加してきた。また美術部は各種イベントの似顔絵コーナーに何度も参加し好評をいただいている。特定の部活動などだけでなく、多くの生徒がボランティア活動に参加する機会の設定を検討したい。
	④ 地域の方々と保護者とともに行う行事の中で生徒一人ひとりが充実感・達成感を得られるよう生徒自らが主体的に企画・運営する。	生徒課 各学年	【満足度指標】 生徒が生徒会行事へ主体的に関わり、より積極的に参加し、充実感・達成感を得ることができる。	学校行事や生徒会活動に積極的に参加していると答える生徒の割合が A 95%以上である B 85%以上である C 75%以上である D 75%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。(生徒によるアンケート)	84.3% C	前期81.8% 7月の辰巳祭では準備段階からほとんどの生徒が積極的に参加し熱心に活動していた。またスポーツ大会の際には数日前からクラス対抗競技の練習に取り組むクラスがあった。これらの行事で生徒たちの参加意欲は決して低くないと考えられるが、アンケートの結果を見ると乖離があるため、その理由を探り、生徒が関心を持って参加できる行事のあり方を生徒とともに検討していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等を活用してホームページ閲覧につなげられないか。それが志願者増につなげれば喜ばしいことである。 ・芸術コースの特色ある地域交流・地域貢献などを積極的に行い、本校の良さを地域や市内に広げてほしい。 ・冬季の大雪の際に、地域の除雪にも取り組んでほしい。また、生徒が多く利用するバス停の除雪にも当たってほしい。 							
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等の導入については検討を要するが、本校の魅力を発信は継続的な課題として取り組む。 ・現在でも美術専攻生は対面の似顔絵ボランティアとして外部に出ており、生徒にとってもコミュニケーション力の向上など利点がある。 ・新型コロナウイルス感染症が落ち着けば音楽専攻生も以前のように演奏ができるようになり、交流の幅が広がると考えられる。 ・除雪については地元町会と具体的な協議をしていきたい。 							

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	集計結果	分析（成果と課題）と改善策等
4 教育活動の効果をより一層高めるため、学校や教員が担う業務の整理、ICT機器活用による業務の効率化や業務分担の適正化等の働き方改革を積極的に推進する。	① 職員の働き方を再考、工夫し一人ひとりの子どもに丁寧に関わりながら、学習指導、生徒指導など、各自の業務に専念できる環境づくりを進める。	管理職 各課・室 各学年	【満足度指標】 全職員が計画的な業務の遂行を意識し、教材等の共有を図るほか、役割分担の見直しで業務の標準化を行い、組織的な学校運営で時間外勤務時間を減らす。	組織が有機的に機能していると答える教員が A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	C評価以下の場合 は、結果を分析して改善策を検討する。	7月、1月に調査する。（教員によるアンケート）	70.0% D	前期70.9% 前期の結果を踏まえ、業務の偏りの解消、時間外勤務時間の減少に努めたが、十分とは言えなかった。次年度は教職員との対話を通して役割分担の見直しや業務の標準化などに取り組む。
学校関係者評価委員会の評価		・教員の疲弊は生徒に悪影響を与えるので、ぜひ改善してほしい。						
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・教職員との対話を通じて業務量の改善・調整を図る。 ・各課・室・学年の繁忙の程度に応じて支援しあうことができる柔軟な組織体制にする。						